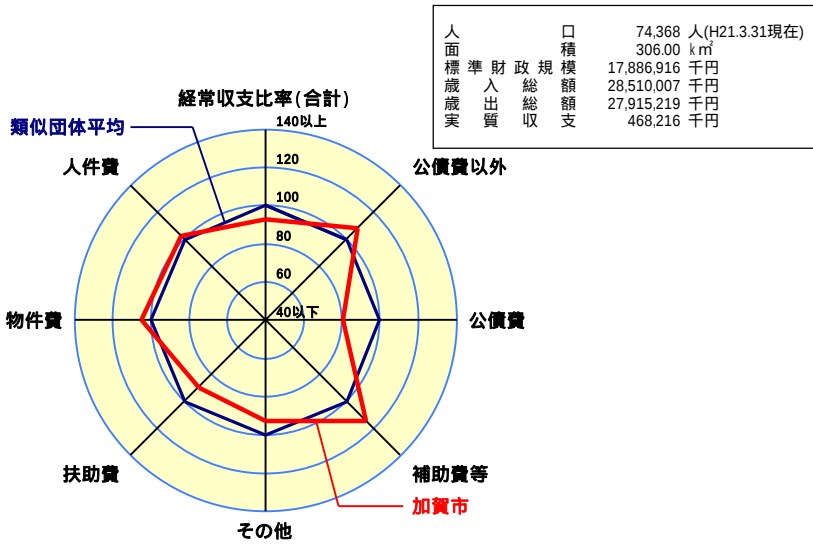
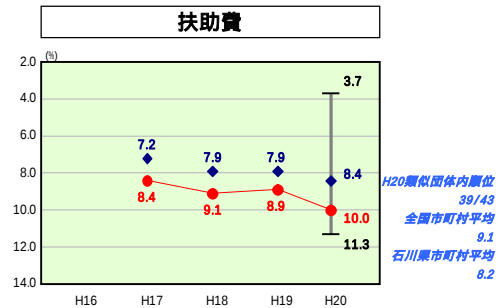
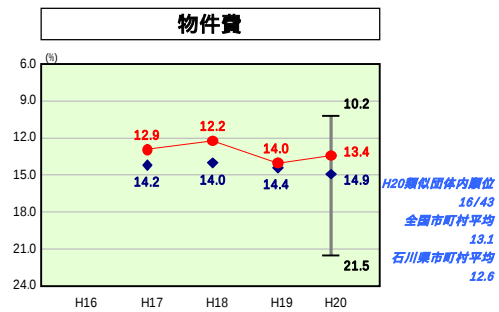
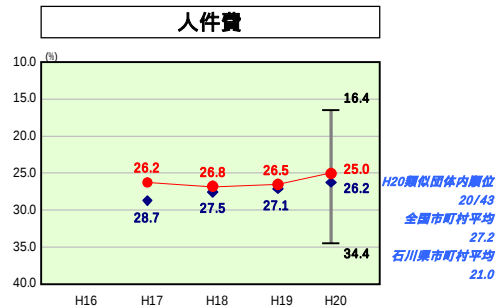
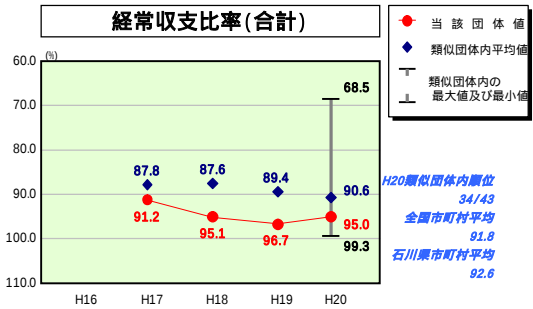


歳出比較分析表(平成20年度普通会計決算)

石川県 加賀市

経常収支比率の分析



- 本レーダーチャートは、当該団体と類似団体平均値より算出した偏差値をもとにチャート化したものである。(偏差値は平均を100としている。)
- 当該団体の八角形が平均値の八角形より外側にあるほど、歳出抑制等により財政構造に弾力性があることを示している。
- 類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。

分析欄

○経常収支比率
扶助費、公債費、繰出金の割合が高い。普通会計、特別会計とも公債費の抑制に努めるとともに、市税などの一般財源の確保に努める。

○人件費
機構改革による管理職の抑制及び人事評価制度導入による年功序列的な給与の上昇を抑制しているため、類似団体平均より若干低い数値である。今後も、指定管理者制度の更なる推進や業務の民間委託等により人件費の抑制に努める。

○物件費
類似団体平均を下回って推移している。業務の民間委託や資源ごみの収集に係る費用の増加が比率上昇の要因となっている反面、平成20年度10月から導入した家庭ごみ処理有料化により分別収集が進み、ごみ処理に係る費用が減少した。引き続き、各施設の管理経費や一般行政経費において、徹底した経費削減を行っている。

○扶助費
扶助費に係る経常収支比率が類似団体平均を上回っている。児童福祉費や社会福祉費、生活保護費など義務的扶助費によるものが大きい。

○公債費
大型事業等の償還が大きいため類似団体平均を上回っている。公債費負担適正化計画に基づく、起債の抑制により健全化に努める。

○補助費等
類似団体の平均を下回っている。この要因としては、各種団体への運営助成を含む補助金の統合・廃止を進めたことが挙げられる。また当初予算編成時から経費の抑制に努めている。

○その他
その他に係る経常収支比率が類似団体平均を上回っているのは、特別会計への繰出金の影響による。特に、介護保険特別会計、下水道特別会計および病院事業会計に対する繰出金が高い。

○普通建設事業
合併後の基盤整備により徐々に増加しているが、事業の完了に伴い遞減したことで、類似団体平均を下回っている。今後も税収の減少が懸念される中、市の財政状況は非常に厳しい状況である。総合計画に基づく事業の「選択と集中」により建設事業の抑制に努める。

人面標準歳末実	口積模額	74,368人(H21.3.31現在)
準財政総額	17,886,916千円	306.00km ²
歳出総額	28,510,007千円	
歳入総額	27,915,219千円	
歳入総額	468,216千円	

